

## 文化・芸術



「梅咲く山家」

1950年ごろ、紙本彩色  
42・4センチ×58・0センチ

川合玉堂

(1873～1957年)

大川美術館コレクションから

### 〈名画の扉〉

やわらかな紅梅色感に、墨表現が存分に発揮された川合玉堂の力作の一点です。本作には、輪郭線を筆線で描かず、形態や空気感を色面で表現する技法である没骨表現的な墨の扱いが見られます。ほかに、玉堂ならではの絵に、細かく引いた墨線の律動が、風景に奥行きや広がりをもたらしています。1950年代の作風に特徴的な簡潔さとおおらかさを併せ持つ魅力が漂っています。

戦前には、自然の質

(小此木)

4月26日から開催の大川美術館リニューアルオープン記念展「エコール・ド・パリの画家たちと松本竣介」と同時開催のコレクション展で展示予定です。